

校長室だより



安心・安全・命だいじ

河内長野市立加賀田小学校



9月

一人ひとりがキラッとかがやき、笑顔にあえる学

校長 木村 淳

今年の夏休みは本当に暑い日が続きましたが、最近では陽が落ちると、少し爽やかな風が吹き、ほっとする瞬間を味わえるようになってきました。さて、始業式も終え、いよいよ本日から2学期がスタートしました。始業式では子どもたちに8月6日の広島平和記念式典でこども代表が読み上げた宣言文を紹介しました。以下はその文章です。

みなさんにとって「平和」とは何ですか。争いや戦争がないこと。差別をせず、違いを認め合うこと。悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。身近なところにも、たくさんの平和があります。

昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分。耳をさくような爆音、肌が焼けるほどの熱。皮膚が垂れ下がり、血だらけとなって川面(かわも)に浮かぶ死体。子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて」と、叫び続ける母親。たった一発の爆弾により、一瞬にして広島のみちは破壊され、悲しみで埋め尽くされました。「なぜ、自分は生き残ったのか」仲間を失った私の曾祖父(ひいおじいさん)は、そう言って自分を責めました。原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、生きていくことへの苦しみを与え続けたのです。

あれから78年経ちました。今の広島は緑豊かで笑顔あふれるまちとなりました。「生き残ってくれてありがとう」命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。

私たちにもできることがあります。自分の思いを伝える前に、相手の気持ち
を考えること。友だちのよいところを見つけること。みんなの笑顔のため
に自分の力を使うこと。今、平和への思いを一つにするときです。

被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。

令和5年(2023年)8月6日 こども代表

広島市立牛田小学校6年 勝岡英玲奈(ふじおかえれな)

広島市立五日市東小学校6年 米広朋留(こめひろともる)

職員一同力を合わせてすすめてまいりますので、保護者のみなさま、地域
のみなさま、どうぞご協力をお願いいたします。

< 校内の安全について >

加賀田小学校では校内の安全のために、看板や地面に道路標示（とまれ）と停止線を設けています。この夏休みの間に、廊下にペイントされていた赤い足型や「とまれ」と停止線を塗りなおしました。保護者のみなさまには基本的に校内に自動車の乗り入れがないようお願いしていますが、緊急の場合や、PTA 関連での来校の際には、必ず十分に速度を落とした徐行、停止線では必ず一旦停止をお願いいたします

< 詩の暗唱 >

『9月の詩』Aは夏休みに世界陸上があったので載せてみました。Bは平和についての相田みつをさんの詩です。がんばって覚えてみよう。

B

「わけ合えば」 相田みつを

うばい合えば足らぬ わけ合えばあまる
うばい合えばあらそい わけ合えばやすらぎ
うばい合えばにくしみ わけ合えばよろこび
うばい合えば不満 わけ合えば感謝
うばい合えば戦争 わけ合えば平和
うばい合えば地獄 わけ合えば極楽



A

棒高とび 下田喜久美

春の空に しまだ 喜くみ
はる そら
しなつては はねかえる
棒高とびのさお
ぼうたかと
旗のように ひるがえつて はるかな 青い空にふれ
はた
からだは 一回転して 空をつかみ
いっかいてん そら
大地に かるやかに もどる
だいち

